

反省点・改善点

1、全体の振り返りから問題や意識を共有できていなかった。

震災の経験から人々に対する思いや目的意識をメンバーは持っている。その先の一つひとつの活動を実施する意義を活動内容により、共有できていない部分があった。それは、情報をきちんと一方的にではなく双方向に行えていなかったことだと考える。

↓

- ・「報告・連絡・相談」を行い、全体で意識、情報を共有しあう。
- ・ボランティア先の人々の悩みや困りごと、希望への関わりや、全体の活動を行うのに、一人ひとりの考えや意見を取り入れていくことで次の活動に繋いでいく。

2、ボランティア活動の計画・実施を

活動は人数や時間、活動資金、などによって制限がある。その中で、よりよい内容を計画、実施し、人々との関わりを深め、生活にあった内容を行う。

↓

- ・必要な内容の話し合いをメンバーに効果的に伝える。
- ・校内外へボランティアを呼びかけ、参加してもらうことで活動に対する新しい考えや団体メンバーの参加を募る。

活動指針

1、現状維持

月に1回郭内公園仮設住宅で行ってきた活動を、これからも引き続き行う。学校の講義・実習などを考え、無理することなく、自分達のできる範囲で活動を続けていく。

2、地域(二本松など)・社会(行政・社会福祉協議会など)と繋がりをつくる

これからふくかいねっとの活動幅を広げていきたいと考えている。自分たちのみでは情報が足りず、私たちは〇〇したいと思っても実際何をどうしていいか分からず、ジレンマを抱えることがある。活動を広げる第一歩として、地域・社会の方々と繋がり、協力や意見交換ができる環境を作りたい。